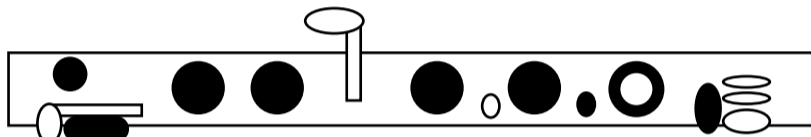
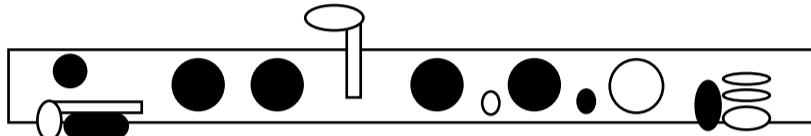
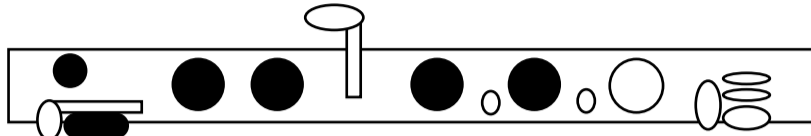
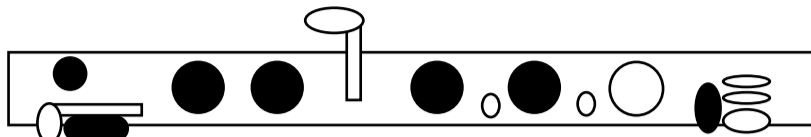
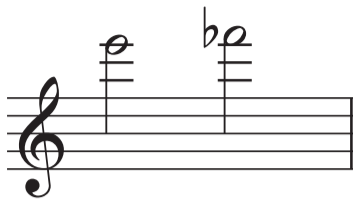


フルート替え指リスト

2018.6.25

※加藤克朗『フルート教本』の運指表 (P.94) に掲載されている運指を「正規」とした。



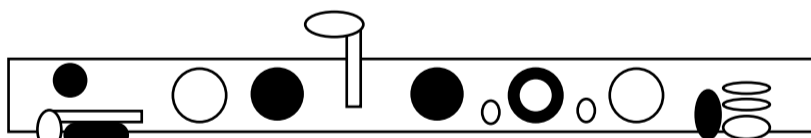
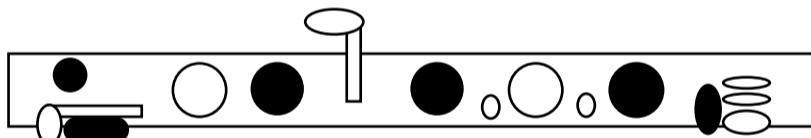
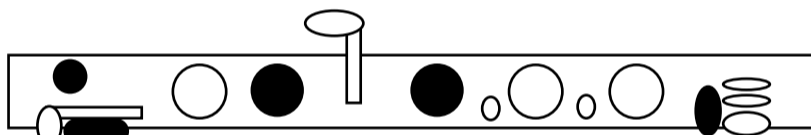
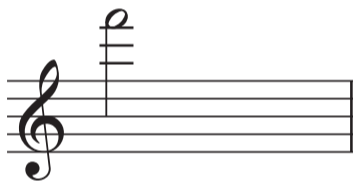
正規の運指

正規の運指から右小指を離したもの。
Eメカ非搭載の楽器でも音が裏返りにくく、音程もかなり下げられる。
暗めの音色になる。坂本のデフォルト。

正規の運指に右薬指のトリルキイ追加。
発音しやすくなる点は上の運指と共通だが、音程は高め、音色は明るくなる。
J. Ibert「フルート協奏曲」の第三楽章冒頭の E→A→E の跳躍は、この運指で乗り越えられる。

※リングキイ限定

上の運指に加え、右薬指でキイの枠だけをおさえる。右薬指で二つのキイをおさえるか、右小指を離して代わりにこのキイをおさえても良い。
上の運指よりも音程が低めになる。



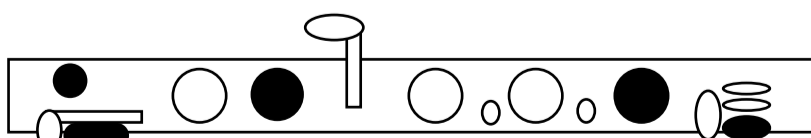
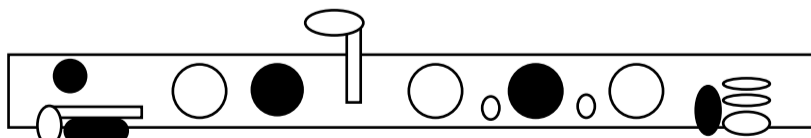
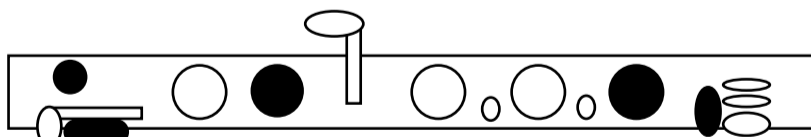
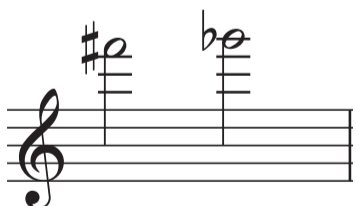
正規の運指

正規の運指に右薬指を追加。

音程を下げやすい。
さほど音色に影響しないので使い易い。

※リングキイ限定

正規の運指に加え、右中指の枠だけ抑える。
かなり音程が下がり、音色は暗くなる。
思い切り、攻撃的に演奏したい場合に使える。

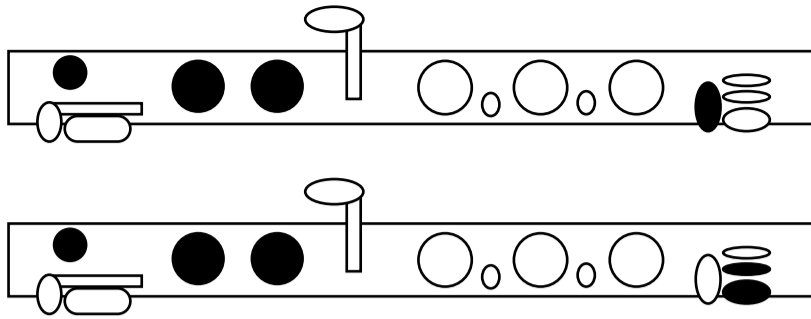
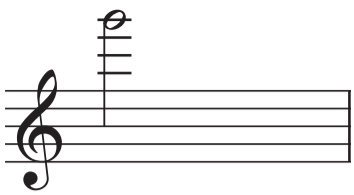


正規の運指

正規の運指の右薬指の代わりに、右中指をおさえる。割れにくくなり、音程が下がる。音色は暗くなる。坂本のデフォルト。

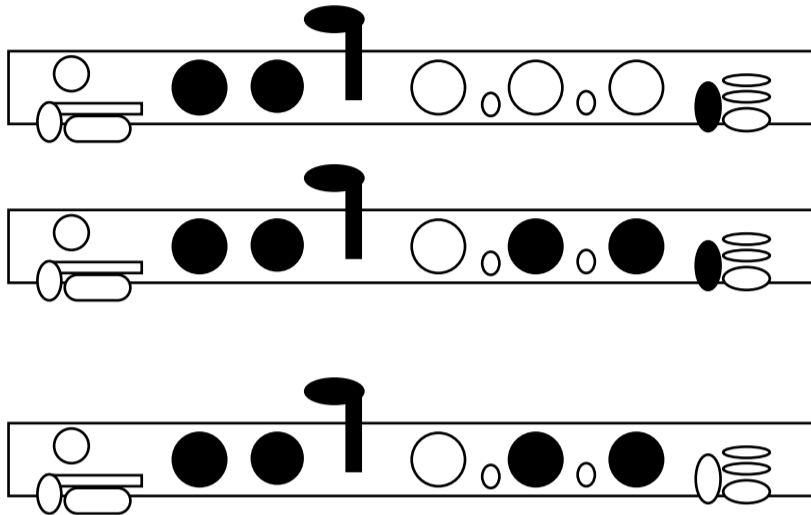
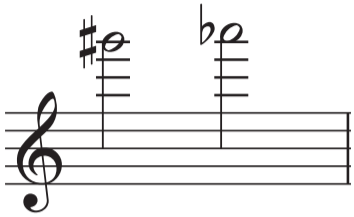
正規の運指の右小指をCisキイに。音程は高めに、音色は明るくなる。発音しやすく、綺麗な音を出しやすいので、ppのとき非常に便利。

Morpho theseus (融解建築『CYCLE』収録) のサビでは、この三種の運指を(気分によって)使い分けている。



正規の運指

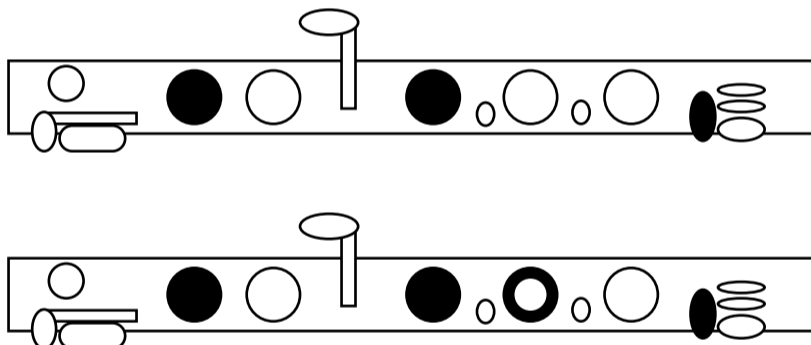
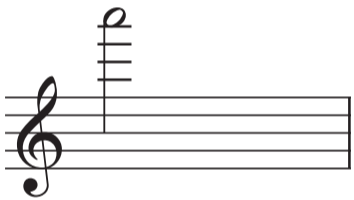
正規の運指の右小指をCキイへ。
高音Gの音程が高くなりやすい場合、気
休め程度だが音程が下がる。
Shiska（融解建築『il filo dell'orizzonte』
収録）の最後のサビでちらっと出てくる
この音が強敵。



正規の運指

正規の運指に右中指、右薬指を追加。
音程が低めになる。坂本のデフォルト。
この運指を正規にしても良いのではない
だろうか。

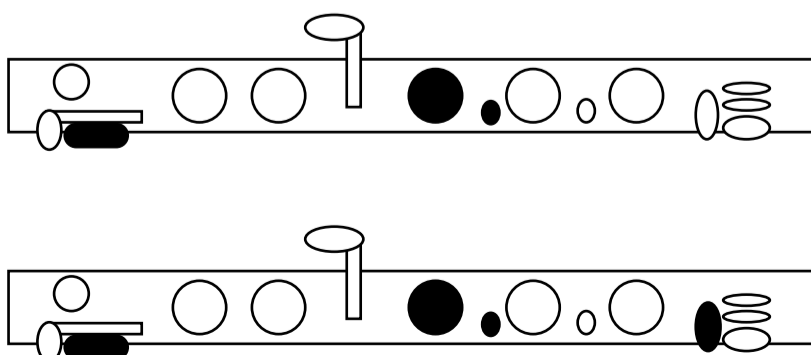
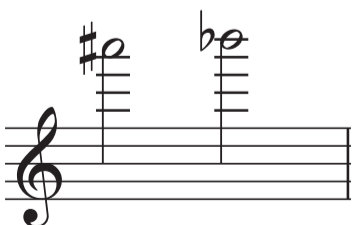
上の運指から右小指を離す。
かなり音程が低くなり、音色はやや雑音
混じりに。
攻撃的なffが欲しい場合に便利だが、流
れるフレーズの中で用いると音色が浮き
やすいので要注意。



正規の運指

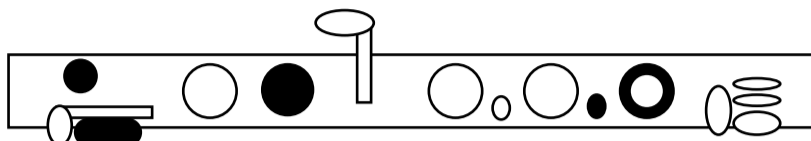
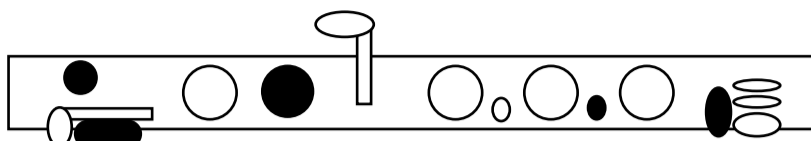
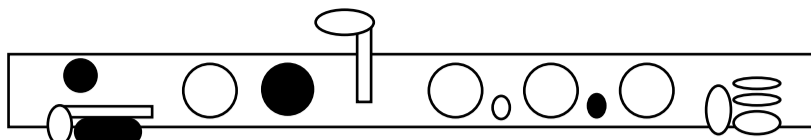
※リングキイ限定
正規の運指に加え、右中指で枠のみをお
さえる。
音程を下げやすくなるのと、通常の運指
だと煌びやかに鳴りすぎるとき、落ち着
いた音色にできる。
リングキイでない楽器の場合、穴ごと塞
いでしまっても良いが、極端に音が変わ
ってしまうので要注意。

正規の運指の右小指をCisキイに。
アタックを強くつけなくても、澄んだ綺
麗な音で発音できる。音程は高め。
ppを奏する際に非常に便利。



正規の運指

正規の運指の右小指おさえる。
音程がやや低めになる。

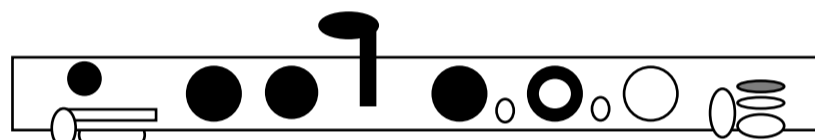


正規の運指

正規の運指から右小指をおさえる。
少しだけ音程があがる。

正規の運指から、右薬指の枠だけをおさえる。右小指でおさえてもよい。
かなり音程を下げる事ができ、少々乱暴に吹いても耳に刺さりにくい音色が得られる。

Hedgehog Cadillac (融解建築『星芒』収録) のサビ最後のロングトーンで使用されている。



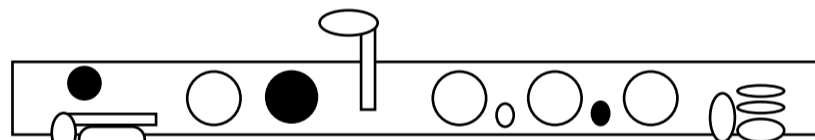
正規の運指

※リングキイ限定

正規の運指に加え、右中指の枠のみをおさえる。

音程を下げられるが、発音しづらくなることと、籠った音色になるので、綺麗なフレーズを歌う場面では不向き。

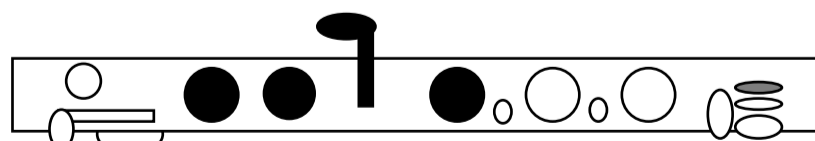
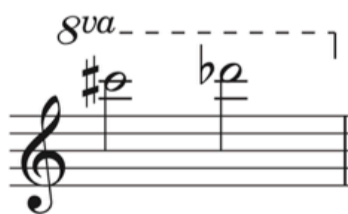
H足の場合、正規と同様に右小指をおさえる必要あり。



C音ではなく、B音(英語音名)とC音とのトリル用の運指を用いたもの。

ffでも正確な音程が得られるが、やはり発音が難しいのと、音色があまり綺麗ではないため、使用できる場面は限られる。

Aurele Nicolet氏は、A. Jolivet の「フルート協奏曲第1番」の "Allegro risoluto" 冒頭のC音を、この運指で演奏することを推奨している (『MURAMATSU MEMBER'S LIBRARY オーレル・ニコレ [フルート公開レッスン] L. ベリオ: セクエンツァ I』参照)。



C音の運指から左人差し指を離す。

C#音というより「ものすごく音程の高いC音」と言った方が正確かもしれない。

かなり音程が低くなり、前後の音と釣りが合いが取れなくなることが多いので、使える場面は限られるが、どうしても平均律に従う必要のある時のために知っておくと便利。

※加藤克朗『フルート教本』の運指表にはこの音の運指が記載されていないため、正規運指は省略する。